

嚥下障害

高齢者に多い疾患－嚥下障害

問題 1 誤りはどれ？

- ①舌と歯を使い，唾液と混ぜて飲み込みやすい形にすることを嚥下と言う。
- ②舌の運動によって，食べ物は，喉の奥へ送り込まれる。
- ③嚥下障害は，誤嚥性肺炎の原因の一つである。
- ④食事中，食後にガラガラ声やかすれたような声になった時は，誤嚥の可能性がある。
- ⑤嚥下障害のリハビリの専門家は，OTである。

問題 1 解答

誤っているのは①、⑤

①舌と歯を使い，唾液と混ぜて飲み込みやすい形にすることを**咀嚼**と言う。

⑤嚥下障害のリハビリの専門家は**言語聴覚士**
(**ST**:Speech-Language-Hearing Therapist)
OT (Occupational Therapist)は作業療法士。

高齢者に多い疾患－嚥下障害

問題2 誤りはどれ？

- ① 摂食・嚥下の過程は、先行期・準備期・口腔期・咽頭期・食道期の5つに分かれる。
- ② 先行期は、食べ物を見て、何をどのくらい、どのように食べるかを判断する時期である。
- ③ 先行期の障害としては、食べ物を見せても反応しない、
- ④ 飲み込んだ後に喉がゼロゼロと湿性嚙声の障害が出る時期は、食道期である。
- ⑤ 準備期の障害には、口を閉じることが難しく、ダラダラと食べ物がこぼれてしまうことがある。

問題 2 解答

誤っているのは④、⑤

先行期：何をどのくらい、どのように食べるかを判断する。

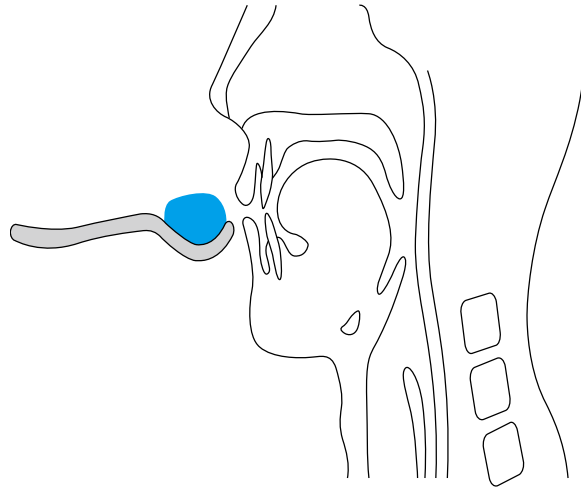
準備期：食物を口に取り込み、咀嚼し、唾液と混ぜて飲み込みやすいように食塊を作る時期。

口腔期：食塊を舌で口から喉へ送り込む時期。

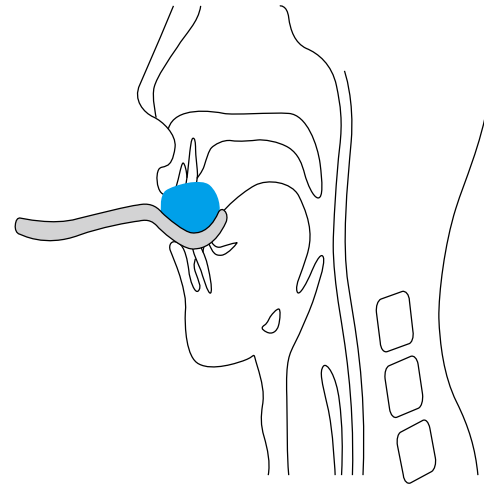
咽頭期：食物を喉から食道へ送り込む時期。

食道期：食塊を食道内から胃へと送り込む時期。

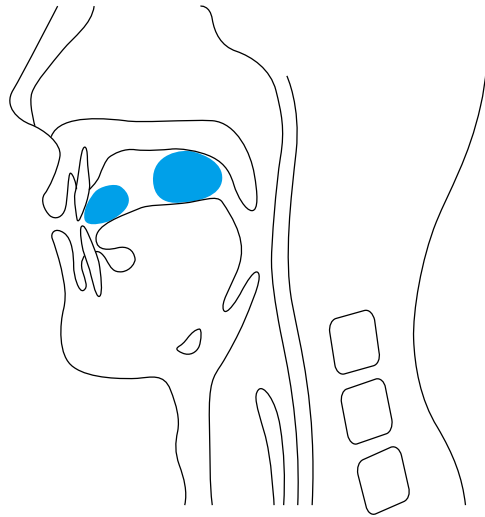
④は咽頭期、⑤は口腔期



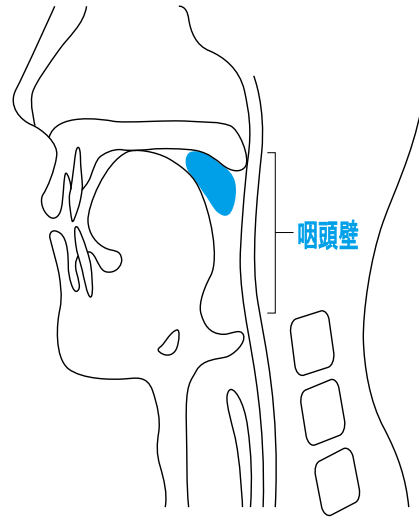
先行期



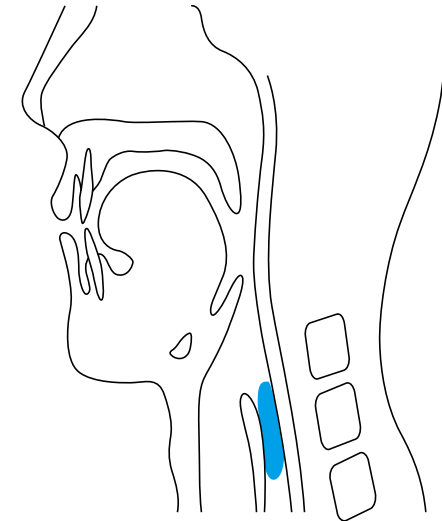
準備期



口腔期



咽頭期



食道期

* 出典(イラスト) 佐藤 良枝 著食べられるようになるスプーンテクニック 株式会社 日総研出版 2017年

高齢者に多い疾患－嚥下障害

問題3 正しいのはどれ？

- ①異物が喉に詰まったサインをチョークサインと言う。
- ②口の中に物が詰まっている場合は、まず指でかき出すが、急を要するので素手で行ってもよい。
- ③背部殴打法とは、患者の背部に回って両腕で上体を抱え、一方の手でこぶしを握って剣状突起とへその間に置き、もう一方の手をその上に被せて組み、腹部に食い込ませるように瞬間的に引き上げ、上方に締め付けるように抑える方法である。

問題 3 解答

正しいのは①

- ②口の中に物が詰まっている場合は、まず指で
かき出す。素手で行うと感染のリスクがある
ので、急いでいても、ディスポグロブを使用
する。
- ③記述はハイムリック法の説明である。

高齢者に多い疾患－嚥下障害

問題4 正しいのはどれ？

- ①口から食べることで口の中をきれいにする自浄作用が働くので、経管栄養などの口から食べられない方は、口腔内の汚染が強くなりやすい。
- ②高齢者の口腔乾燥は、利尿剤や抗うつ剤などが原因になる場合もある。
- ③嚥下機能が低下している人へのきざみ食は、誤嚥を引き起こしやすいので控えたほうがよい。
- ④義歯が本人にあっている場合は、義歯を外さないで口腔ケアを行うのがよい。

問題 4 解答

正しいのは①、②、③

- ④義歯は口腔ケアの際には、**毎回外して、洗
浄する**必要がある。義歯をはめたまま口腔
ケアをしても**義歯と歯肉や残存歯の間に食
残が残っている**ことが多く、清潔を保つこ
とができない。

高齢者に多い疾患－嚥下障害

問題5 正しいのはどれ？

- ①嚥下しやすい食事の姿勢は、顎が少し上を向いている角度である。
- ②車椅子に座っていると仙骨座りになりやすいが、食事中は仙骨座りのままでも嚥下には問題ない。
- ③食事のテーブルの高さと椅子の高さは、嚥下状態に関係があるので、適切な高さを準備する。
- ④嚥下状態の悪い方への食事介助では、一定のテンポでスピーディに対応することが大切である。

問題5 解答

正しいのは③

- ①顎を上げると角度的に気道の方に食物が移動しやすくなるので、**誤嚥の可能性が高まる**。顎は少し下げ気味にする方が安全な嚥下になる。
- ②仙骨座りになると顎があがってしまうため、仙骨座りになっている利用者の方がいたら、**尾骨で支える座り方に直す**ことが必要である。
- ④利用者さんの**咀嚼や嚥下のスピードに合わせた介助を実施**して、あまりスピーディにならないように注意をすることが重要である。きちんと**飲み込んでいるかを確認**しながら介助する。

高齢者に多い疾患-嚥下障害

問題6 事例問題

病院から退院してきた入居者のケース。

病院からの情報では常食ということだったが、常食を提供したところ、食事中のむせが多く、嚥下状態に不安がある。

介護職員として、今後はどのような対応をしたらよいか？

問題6 解答例

病院からの情報が必ずしも正しいということはない。

介護施設に入居後、常食を提供して、むせが強く、嚥下状態に不安がある場合には、利用者本人や医療職とも相談しながら、食品を一口大にカットしてみたり、白米を全粥に変えてみたりして、食事の途中であっても誤嚥のない安心な食形態に変更することが重要である。

食事時の**姿勢、椅子やテーブルの高さ**なども観察しよう。

リハビリスタッフがいる場合には、嚥下リハビリなどを強化したり、主治医とも相談してみるのがよい。

【参考文献】

- 1) 岩下馨歌里：研修用DVD安心安全ケア教育 下巻，2012.
- 2) 介護人財育成ぷらすVol. 5， No. 7（特別編集号），2008.

教材作成

有限会社ファイブアローズ

取締役 岩下由加里

※本教材は「介護研修115の問題用紙」（日総研出版）の教材を
大幅に加筆修正したものである。

お疲れ様でした。